

2 令和6年の自殺の状況（全国）

(1) 自殺の概況

自殺者数は前年に比べて1,517人減少し、20,320人と統計開始以降2番目に少なくなった。男女別にみると、男性は前年から1,061人減少し13,801人、女性は456人減少し6,519人となった。男性の自殺者数は、女性の約2倍であった。

年齢階級別にみると、「50～59歳」が3,799人と最も多く、次いで「40～49歳」（3,214人）、「70～79歳」（2,685人）の順で多かった。

職業別にみると、「無職者」が10,800人と最も多く、次いで「有職者」（8,092人）、「学生・生徒等」（1,077人）が続いた。

学生・生徒等の内訳をみると、「大学生」が最も多く434人であった。男女別にみると、男性は「大学生」（289人）が最も多かったが、女性は「大学生」（145人）より「高校生」（185人）が多く、「中学生」及び「高校生」では男性を上回った。

無職者の内訳をみると、「年金・雇用保険等受給者」が全体のおよそ半数となる5,492人であり、「その他の無職者」（3,278人）、「失業者」（1,114人）が続いた。男女別にみると、男性は全体と同様である一方、女性は「年金・雇用保険等受給者」、「その他の無職者」に続いて「主婦・主夫」が多かった。

原因・動機別にみると、「健康問題」が12,029件と最も多く、「経済・生活問題」（5,092件）、「家庭問題」（4,297件）が続いた。男女別にみると、男女ともに「健康問題」が最も多い（男性：7,063件、女性：4,966件）が、男性は「経済・生活問題」（4,459件）が、女性は「家庭問題」（1,654件）が2番目に多かった（図表1-9）。

図表1-9 令和6年の年齢階級別、職業別、原因・動機別にみた自殺者数と前年比較

(人)

	総数	(前年差)	男性	(前年差)	女性	(前年差)
自殺者数	20,320	(-1,517)	13,801	(-1,061)	6,519	(-456)

(人)

年齢階級	総数	(前年差)	男性	(前年差)	女性	(前年差)
～19歳	800	(-10)	370	(-61)	430	(+51)
20～29歳	2,465	(-56)	1,546	(-53)	919	(-3)
30～39歳	2,399	(-188)	1,717	(-166)	682	(-22)
40～49歳	3,214	(-411)	2,366	(-299)	848	(-112)
50～59歳	3,799	(-395)	2,684	(-255)	1,115	(-140)
60～69歳	2,584	(-214)	1,812	(-119)	772	(-95)
70～79歳	2,685	(-216)	1,799	(-111)	886	(-105)
80歳～	2,346	(-24)	1,483	(+4)	863	(-28)
不詳	28	(-3)	24	(-1)	4	(-2)

(人)

職業	総数	(前年差)	男性	(前年差)	女性	(前年差)
有職者	8,092	(-766)	6,331	(-732)	1,761	(-34)
学生・生徒等	1,077	(+58)	591	(+19)	486	(+39)
小学生	15	(+2)	9	(+4)	6	(-2)
中学生	163	(+10)	64	(-9)	99	(+19)
高校生	351	(+4)	166	(-15)	185	(+19)
大学生	434	(+24)	289	(+32)	145	(-8)
専修学校生等	114	(+18)	63	(+7)	51	(+11)
無職者	10,800	(-666)	6,604	(-223)	4,196	(-443)
主婦・主夫	870	(-188)	15	(-3)	855	(-185)
失業者	1,114	(-27)	896	(-5)	218	(-22)
利子・配当・家賃等生活者	31	(-3)	22	(+5)	9	(-8)
年金・雇用保険等受給者	5,492	(-305)	3,474	(-150)	2,018	(-155)
ホームレス	15	(-7)	14	(-6)	1	(-1)
その他の無職者	3,278	(-136)	2,183	(-64)	1,095	(-72)
不詳	351	(-143)	275	(-125)	76	(-18)

(件)

原因・動機	総数	(前年差)	男性	(前年差)	女性	(前年差)
家庭問題	4,297	(-411)	2,643	(-234)	1,654	(-177)
健康問題	12,029	(-374)	7,063	(-161)	4,966	(-213)
経済・生活問題	5,092	(-89)	4,459	(-49)	633	(-40)
勤務問題	2,564	(-311)	2,146	(-305)	418	(-6)
交際問題	868	(-9)	526	(-10)	342	(+1)
学校問題	572	(+48)	350	(+10)	222	(+38)
その他	1,704	(-72)	1,198	(-46)	506	(-26)

※自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きていることに留意が必要である。

※自殺の原因・動機は、遺書等の生前の言動を裏付ける資料がある場合に加え、家族等の証言から考え得る場合も含め、自殺者1人につき4つまで計上可能である。このため、原因・動機特定者数と原因・動機の件数の和は一致するとは限らない。

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

年齢階級別及び職業別の構成をみると、最も多かったものから順に、「70～79歳」の「無職者」(2,251人)及び「80歳～」の「無職者」(2,242人)となり、高年齢層の無職者の自殺が多かった。また、続いて多いのは、「50～59歳」の「有職者」(1,951人)及び「40～49歳」の「有職者」(1,871人)と、現役世代の有職者であった。

男女別にみると、男性は「50～59歳」の「有職者」(1,578人)及び「40～49歳」の「有職者」(1,517人)が多く、次いで「70～79歳」の「無職者」(1,428人)及び「80歳～」の「無職者」(1,391人)と、現役世代の有職者が最も多く、続いて高年齢層の無職者が多い。

一方、女性は「80歳～」の「無職者」(851人)、「70～79歳」の「無職者」(823人)、「50～59歳」の「無職者」(726人)、「60～69歳」の「無職者」(612人)と続き、中高年の無職者の自殺が多い(図表1-10)。

図表1-10 令和6年の年齢階級別及び職業別にみた自殺者数

(人)

職業		年齢階級	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳	合計
職業	合計	計	800	2,465	2,399	3,214	3,799	2,584	2,685	2,346	28	20,320
		男	370	1,546	1,717	2,366	2,684	1,812	1,799	1,483	24	13,801
		女	430	919	682	848	1,115	772	886	863	4	6,519
	有職者	計	75	1,263	1,481	1,871	1,951	942	416	93	0	8,092
		男	39	814	1,157	1,517	1,578	787	357	82	0	6,331
		女	36	449	324	354	373	155	59	11	0	1,761
	無職者	学生・生徒等	計	649	418	9	0	1	0	0	0	1,077
			男	296	286	8	0	1	0	0	0	591
			女	353	132	1	0	0	0	0	0	486
		無職者	計	73	737	861	1,261	1,780	1,594	2,251	2,242	10,800
			男	34	419	515	780	1,054	982	1,428	1,391	6,604
			女	39	318	346	481	726	612	823	851	4,196
		主婦・主夫	計	0	30	70	148	276	183	111	52	870
			男	0	2	2	0	4	1	3	3	15
			女	0	28	68	148	272	182	108	49	855
		失業者	計	2	151	177	242	352	148	38	4	1,114
			男	2	111	128	193	295	128	35	4	896
			女	0	40	49	49	57	20	3	0	218
		年金・雇用保険等受給者	計	4	94	158	270	363	779	1,839	1,985	5,492
			男	0	36	90	174	217	497	1,213	1,247	3,474
			女	4	58	68	96	146	282	626	738	2,018
		その他	計	67	462	456	601	789	484	263	201	3,324
			男	32	270	295	413	538	356	177	137	2,219
			女	35	192	161	188	251	128	86	64	1,105
	不詳	計	3	47	48	82	67	48	18	11	27	351
		男	1	27	37	69	51	43	14	10	23	275
		女	2	20	11	13	16	5	4	1	4	76

※「無職者」のうちの「その他」は、「利子・配当・家賃等生活者」、「ホームレス」及び「その他の無職者」を足し合わせたもの。

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

更に年齢階級別に自殺の原因・動機をみると、ほとんどの年齢階級で「健康問題」が最も多く、特に「70～79歳」では2,153件と、他の年齢階級と比べて最も多かった。一方、「～19歳」では「学校問題」が346件と最も多かった。なお、男女ともにほとんどの年齢階級で「健康問題」が最も多いが、男性では次いで「経済・生活問題」が多い傾向にあり、特に「50～59歳」では、1,194件と「健康問題」を上回った。一方で、女性では、「健康問題」に次いで多いのは「家庭問題」となる傾向があった（図表1-11）。

図表1-11 令和6年の年齢階級別にみた原因・動機

(件)

年齢階級 原因・動機		～19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80歳～	不詳	合計
家庭問題	計	148	327	567	806	873	534	493	549	0	4,297
	男	75	172	381	545	533	334	282	321	0	2,643
	女	73	155	186	261	340	200	211	228	0	1,654
健康問題	計	286	1,047	1,115	1,604	2,049	1,724	2,153	2,051	0	12,029
	男	94	482	652	945	1,188	1,040	1,375	1,287	0	7,063
	女	192	565	463	659	861	684	778	764	0	4,966
経済・ 生活問題	計	31	552	705	1,030	1,349	819	463	143	0	5,092
	男	19	464	636	932	1,194	728	383	103	0	4,459
	女	12	88	69	98	155	91	80	40	0	633
勤務問題	計	34	433	488	672	680	187	60	10	0	2,564
	男	26	312	399	581	601	163	55	9	0	2,146
	女	8	121	89	91	79	24	5	1	0	418
交際問題	計	85	358	192	117	83	19	8	6	0	868
	男	45	196	117	86	55	17	5	5	0	526
	女	40	162	75	31	28	2	3	1	0	342
学校問題	計	346	221	2	2	0	0	1	0	0	572
	男	169	177	1	2	0	0	1	0	0	350
	女	177	44	1	0	0	0	0	0	0	222
その他	計	84	266	200	261	279	188	225	201	0	1,704
	男	42	176	153	201	213	140	158	115	0	1,198
	女	42	90	47	60	66	48	67	86	0	506

※自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きていることに留意が必要である。

※自殺の原因・動機は、遺書等の生前の言動を裏付ける資料がある場合に加え、家族等の証言から考え得る場合も含め、自殺者1人につき4つまで計上可能である。このため、原因・動機特定者数と原因・動機の件数の和は一致するとは限らない。

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

次に、職業別の自殺の原因・動機をみると、「無職者」の「健康問題」が最も多く8,349件であった。男女別にみても最も多いのは「無職者」の「健康問題」（男性：4,660件、女性：3,689件）だが、男性は、次いで「有職者」の「経済・生活問題」（2,423件）、「有職者」の「健康問題」（2,231件）が多く、女性は「無職者」の「家庭問題」（1,055件）、「有職者」の「健康問題」（1,043件）が多かった（図表1-12）。

図表1-12 令和6年の職業別にみた原因・動機

(件)

原因・動機	職業	有職者	無職						不詳
			学生・生徒等	無職者	主婦・主夫	失業者	年金・雇用保険等受給者	その他	
家庭問題	計	1,840	154	2,277	306	180	1,082	709	26
	男	1,332	75	1,222	9	139	623	451	14
	女	508	79	1,055	297	41	459	258	12
健康問題	計	3,274	337	8,349	751	566	4,885	2,147	69
	男	2,231	129	4,660	8	397	2,976	1,279	43
	女	1,043	208	3,689	743	169	1,909	868	26
経済・生活問題	計	2,631	66	2,264	63	703	635	863	131
	男	2,423	55	1,860	1	623	501	735	121
	女	208	11	404	62	80	134	128	10
勤務問題	計	2,284	16	257	6	153	31	67	7
	男	1,923	9	208	1	131	26	50	6
	女	361	7	49	5	22	5	17	1
交際問題	計	544	118	195	7	50	56	82	11
	男	352	66	105	1	35	26	43	3
	女	192	52	90	6	15	30	39	8
学校問題	計	8	534	29	0	2	1	26	1
	男	4	324	22	0	2	1	19	0
	女	4	210	7	0	0	0	7	1
その他	計	650	116	919	43	109	459	308	19
	男	511	62	610	2	88	301	219	15
	女	139	54	309	41	21	158	89	4

※自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きていることに留意が必要である。

※自殺の原因・動機は、遺書等の生前の言動を裏付ける資料がある場合に加え、家族等の証言から考え得る場合も含め、自殺者1人につき4つまで計上可能である。このため、原因・動機特定者数と原因・動機の件数の和は一致するとは限らない。

※「無職者」のうちの「その他」は、「利子・配当・家賃等生活者」、「ホームレス」及び「その他の無職者」を足し合わせたもの。

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

(2) 手段別の自殺の状況

自殺の状況を手段別にみると、「首つり」(12,869人)が最も多く、次いで「飛び降り」(2,519人)、「練炭等」(1,908人)となっている。男女別にみても「首つり」が最も多いが(男性：9,060人、女性：3,809人)、男性は、次いで「練炭等」(1,524人)、「飛び降り」(1,448人)が多く、女性では「飛び降り」(1,071人)、「練炭等」(384人)であった。年齢階級別にみると、全ての年齢階級で「首つり」が最も多いが、「～19歳」では、「首つり」、「飛び降り」に次いで「飛び込み」、「70～79歳」及び「80歳～」では、「首つり」、「飛び降り」に次いで「入水」が多かった(図表1-13)。

図表1-13 令和6年の年齢階級別及び手段別にみた自殺者数

(人)

年齢階級	総数		男性		女性	
	手段	自殺者数	手段	自殺者数	手段	自殺者数
全年齢	首つり	12,869	首つり	9,060	首つり	3,809
	飛び降り	2,519	練炭等	1,524	飛び降り	1,071
	練炭等	1,908	飛び降り	1,448	練炭等	384
～19歳	首つり	392	首つり	198	首つり	194
	飛び降り	229	飛び降り	99	飛び降り	130
	飛び込み	81	飛び込み	37	飛び込み	44
20～29歳	首つり	1,226	首つり	800	首つり	426
	飛び降り	420	練炭等	289	飛び降り	172
	練炭等	416	飛び降り	248	練炭等	127
30～39歳	首つり	1,381	首つり	1,020	首つり	361
	練炭等	392	練炭等	317	飛び降り	114
	飛び降り	297	飛び降り	183	練炭等	75
40～49歳	首つり	1,990	首つり	1,499	首つり	491
	練炭等	450	練炭等	388	飛び降り	154
	飛び降り	382	飛び降り	228	練炭等	62
50～59歳	首つり	2,524	首つり	1,837	首つり	687
	飛び降り	445	練炭等	313	飛び降り	200
	練炭等	373	飛び降り	245	練炭等	60
60～69歳	首つり	1,776	首つり	1,294	首つり	482
	飛び降り	281	飛び降り	161	飛び降り	120
	練炭等	148	練炭等	127	入水	48
70～79歳	首つり	1,872	首つり	1,292	首つり	580
	飛び降り	261	飛び降り	163	飛び降り	98
	入水	158	刃物	73	入水	89
80歳～	首つり	1,695	首つり	1,107	首つり	588
	飛び降り	197	飛び降り	115	飛び降り	82
	入水	129	入水	61	入水	68

※自殺の手段で多いものを上から3つ表示している。

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

(3) 場所別の自殺の状況

自殺の状況を場所別にみると、「自宅」(12,320人)が最も多く、次いで「乗物」(1,354人)、「海(湖)・河川」(1,034人)となった。男女別にみても「自宅」が最も多く、男性は7,963人、女性は4,357人であった。男性で次いで多いのは「乗物」(1,128人)であったが、女性では「高層ビル」(443人)であった。年齢階級別にみても、全ての年齢階級で「自宅」が最も多かった(図表1-14)。

図表1-14 令和6年の年齢階級別及び場所別にみた自殺者数

(人)

年齢階級	総数		男性		女性	
	場所	自殺者数	場所	自殺者数	場所	自殺者数
全年齢	自宅	12,320	自宅	7,963	自宅	4,357
	乗物	1,354	乗物	1,128	高層ビル	443
	海(湖)・河川	1,034	その他	702	海(湖)・河川	338
～19歳	自宅	416	自宅	192	自宅	224
	高層ビル	113	高層ビル	46	高層ビル	67
	鉄道線路	47	鉄道線路	23	その他	25
20～29歳	自宅	1,333	自宅	766	自宅	567
	乗物	242	乗物	183	高層ビル	64
	高層ビル	158	高層ビル	94	乗物	59
30～39歳	自宅	1,302	自宅	868	自宅	434
	乗物	290	乗物	239	高層ビル	55
	高層ビル	134	その他	95	乗物	51
40～49歳	自宅	1,808	自宅	1,246	自宅	562
	乗物	330	乗物	290	高層ビル	63
	高層ビル	169	その他	115	乗物	40
50～59歳	自宅	2,356	自宅	1,585	自宅	771
	乗物	280	乗物	239	高層ビル	87
	高層ビル	181	勤め先	123	海(湖)・河川	48
60～69歳	自宅	1,683	自宅	1,133	自宅	550
	海(湖)・河川	155	その他	111	高層ビル	58
	その他	139	海(湖)・河川	105	海(湖)・河川	50
70～79歳	自宅	1,800	自宅	1,160	自宅	640
	海(湖)・河川	199	海(湖)・河川	117	海(湖)・河川	82
	その他	134	その他	94	その他	40
80歳～	自宅	1,622	自宅	1,013	自宅	609
	福祉施設	177	福祉施設	87	福祉施設	90
	海(湖)・河川	133	海(湖)・河川	82	海(湖)・河川	51

※自殺の場所で多いものを上から3つ表示している。

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

(4) 配偶関係別の自殺の状況

自殺の状況を配偶関係別にみると、「配偶者なし（未婚）」（7,937人）と「配偶者あり」（7,411人）が多く、次いで「配偶者なし（離別）」（2,510人）、「配偶者なし（死別）」（1,645人）となった。年齢階級別にみると、男性は40歳代以下、女性は30歳代以下では「配偶者なし（未婚）」が最も多く、それよりも上の年齢階級では、女性の「80歳～」を除き、それぞれ「配偶者あり」が最も多かった（図表1-15）。

図表1-15 令和6年の年齢階級別及び配偶関係別にみた自殺者数

(人)

		配偶者あり	配偶者なし	未婚	死別	離別	不詳	不詳
総 数	計	7,411	12,750	7,937	1,645	2,510	658	159
	～19歳	1	799	788	1	1	9	0
	20～29歳	183	2,272	2,087	6	93	86	10
	30～39歳	629	1,752	1,389	10	266	87	18
	40～49歳	1,222	1,969	1,326	27	500	116	23
	50～59歳	1,616	2,162	1,240	77	713	132	21
	60～69歳	1,221	1,342	638	157	464	83	21
	70～79歳	1,445	1,219	372	429	346	72	21
	80歳～	1,094	1,234	97	938	127	72	18
	不詳	0	1	0	0	0	1	27
男 性	計	5,010	8,666	5,674	727	1,786	479	125
	～19歳	1	369	364	1	0	4	0
	20～29歳	99	1,441	1,330	6	52	53	6
	30～39歳	421	1,281	1,042	6	170	63	15
	40～49歳	845	1,502	1,044	15	356	87	19
	50～59歳	1,030	1,637	969	38	519	111	17
	60～69歳	771	1,022	538	65	350	69	19
	70～79歳	992	793	316	176	251	50	14
	80歳～	851	620	71	420	88	41	12
	不詳	0	1	0	0	0	1	23
女 性	計	2,401	4,084	2,263	918	724	179	34
	～19歳	0	430	424	0	1	5	0
	20～29歳	84	831	757	0	41	33	4
	30～39歳	208	471	347	4	96	24	3
	40～49歳	377	467	282	12	144	29	4
	50～59歳	586	525	271	39	194	21	4
	60～69歳	450	320	100	92	114	14	2
	70～79歳	453	426	56	253	95	22	7
	80歳～	243	614	26	518	39	31	6
	不詳	0	0	0	0	0	0	4

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

(5) 同居人の有無別の自殺の状況

自殺の状況を同居人の有無別にみると、「同居人あり」(12,809人)が「同居人なし」(7,388人)と比べて約1.7倍となった。男女別にみると、男性は「同居人あり」が8,257人、「同居人なし」が5,443人、女性は「同居人あり」が4,552人、「同居人なし」が1,945人となり、女性の「同居人あり」の割合が男性に比べて高かった。年齢階級別にみると、「～19歳」は男女ともに「同居人あり」の割合が約9割となった(図表1-16)。

図表1-16 令和6年の年齢階級別及び同居人の有無別にみた自殺者数

		(人)		
		同居人あり	同居人なし	不詳
総 数	計	12,809	7,388	123
	～19歳	716	83	1
	20～29歳	1,475	978	12
	30～39歳	1,493	887	19
	40～49歳	2,081	1,115	18
	50～59歳	2,328	1,454	17
	60～69歳	1,531	1,045	8
	70～79歳	1,666	1,005	14
	80歳～	1,519	821	6
	不詳	0	0	28
男 性	計	8,257	5,443	101
	～19歳	336	34	0
	20～29歳	903	633	10
	30～39歳	995	706	16
	40～49歳	1,439	912	15
	50～59歳	1,520	1,149	15
	60～69歳	973	832	7
	70～79歳	1,095	694	10
	80歳～	996	483	4
	不詳	0	0	24
女 性	計	4,552	1,945	22
	～19歳	380	49	1
	20～29歳	572	345	2
	30～39歳	498	181	3
	40～49歳	642	203	3
	50～59歳	808	305	2
	60～69歳	558	213	1
	70～79歳	571	311	4
	80歳～	523	338	2
	不詳	0	0	4

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

(6) 「同居人あり」の場合の年齢階級別及び同居人の詳細別の自殺の状況

自殺の状況を同居人の詳細別にみると、「配偶者」(6,346人)、「母親」(3,983人)、「子(18歳以上)」(2,807人)及び「父親」(2,807人)との同居が多かった。年齢階級別にみると、20歳代以下では「母親」、「父親」、「兄弟姉妹」の順に同居が多く、40歳代及び50歳代では「配偶者」、「母親」の順に、60歳代以上では「配偶者」、「子(18歳以上)」の順に同居が多かった(図表1-17)。

図表1-17 令和6年の「同居人あり」の場合の年齢階級別及び同居人の詳細別にみた自殺者数

(人)

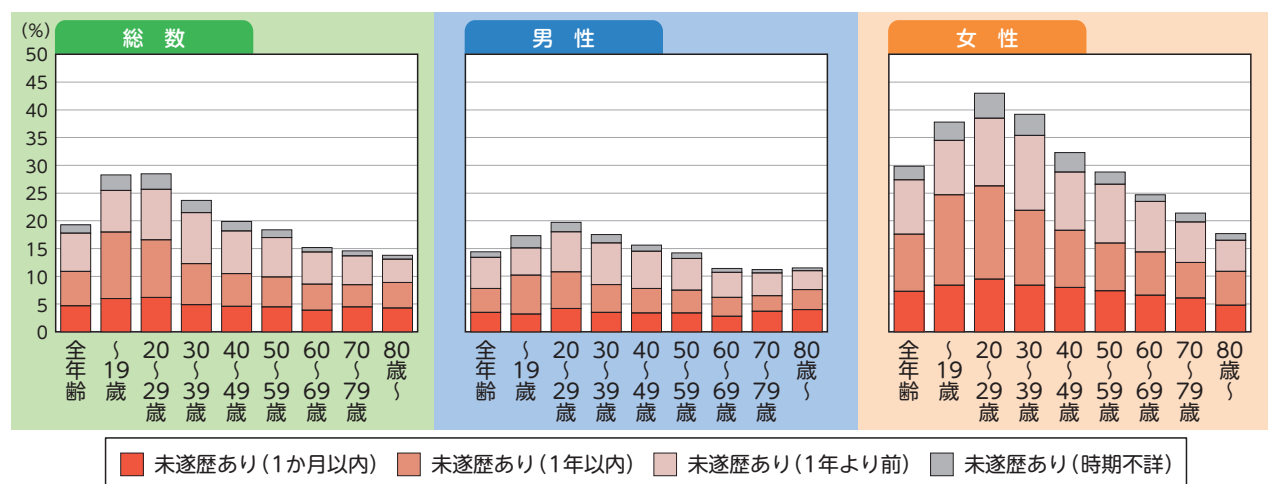
		配偶者	子 (18歳 未満)	子 (18歳 以上)	父親	母親	兄弟姉妹	その他の 親族	婚姻関係 にない パートナー	友人・ 知人	施設等の 入居者	その他	不詳
総 数	計	6,346	1,723	2,807	2,807	3,983	1,950	1,341	468	80	223	155	15
	～19歳	2	5	1	498	624	469	106	15	0	16	4	0
	20～29歳	146	90	6	754	971	548	217	117	36	14	44	5
	30～39歳	537	423	24	583	693	250	127	74	14	14	23	3
	40～49歳	1,011	742	274	558	779	242	97	88	14	14	19	2
	50～59歳	1,373	383	615	352	686	227	106	83	3	14	25	1
	60～69歳	1,089	36	482	58	212	124	131	49	4	20	11	1
	70～79歳	1,296	12	614	4	18	66	204	31	4	42	15	1
	80歳～	892	32	791	0	0	24	353	11	5	89	14	2
男 性	計	4,241	1,181	1,714	1,876	2,672	1,249	823	278	49	127	102	12
	～19歳	2	3	1	240	296	223	54	2	0	7	2	0
	20～29歳	72	53	6	494	624	346	156	47	23	9	28	4
	30～39歳	351	268	17	413	478	168	87	50	6	11	14	3
	40～49歳	692	503	170	417	570	186	67	57	10	9	13	2
	50～59歳	859	290	378	261	511	160	66	52	0	8	17	0
	60～69歳	662	33	280	47	179	100	77	38	3	15	10	1
	70～79歳	894	9	396	4	14	51	129	23	2	26	10	1
	80歳～	709	22	466	0	0	15	187	9	5	42	8	1
女 性	計	2,105	542	1,093	931	1,311	701	518	190	31	96	53	3
	～19歳	0	2	0	258	328	246	52	13	0	9	2	0
	20～29歳	74	37	0	260	347	202	61	70	13	5	16	1
	30～39歳	186	155	7	170	215	82	40	24	8	3	9	0
	40～49歳	319	239	104	141	209	56	30	31	4	5	6	0
	50～59歳	514	93	237	91	175	67	40	31	3	6	8	1
	60～69歳	427	3	202	11	33	24	54	11	1	5	1	0
	70～79歳	402	3	218	0	4	15	75	8	2	16	5	0
	80歳～	183	10	325	0	0	9	166	2	0	47	6	1

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

(7) 自殺未遂歴、自傷行為歴の有無別の自殺の状況²

自殺の状況を自殺未遂歴の有無別にみると、自殺未遂歴があったのは全体の19.4%であった。男女別にみると、女性は29.9%であり、男性（14.5%）の約2倍であった。年齢階級別にみると、男女ともに「20～29歳」が最も高いが、特に女性の「20～29歳」は42.9%に達しており、女性は「80歳～」を除く年齢階級で男性の約2倍となった（図表1-18）。

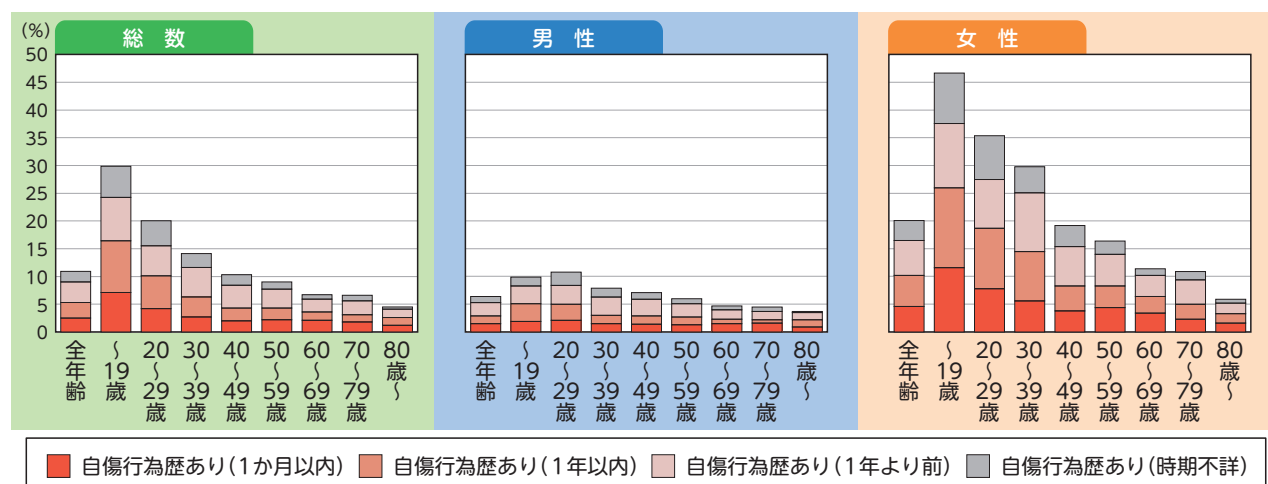
図表1-18 令和6年の「自殺未遂歴あり」の場合の年齢階級別及び自殺未遂時期別にみた自殺者の構成割合



資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

自傷行為歴の有無別にみると、自傷行為歴があったのは全体の10.8%であった。男女別にみると、女性は20.1%であり、男性（6.4%）の約3倍であった。年齢階級別にみると、年齢階級が低いほど割合が高い傾向にある。特に「～19歳」の女性は、「自傷行為歴あり」が46.7%と、同年代の男性（10.0%）の4倍を超えていた（図表1-19）。

図表1-19 令和6年の「自傷行為歴あり」の場合の年齢階級別及び自傷行為の時期別にみた自殺者の構成割合

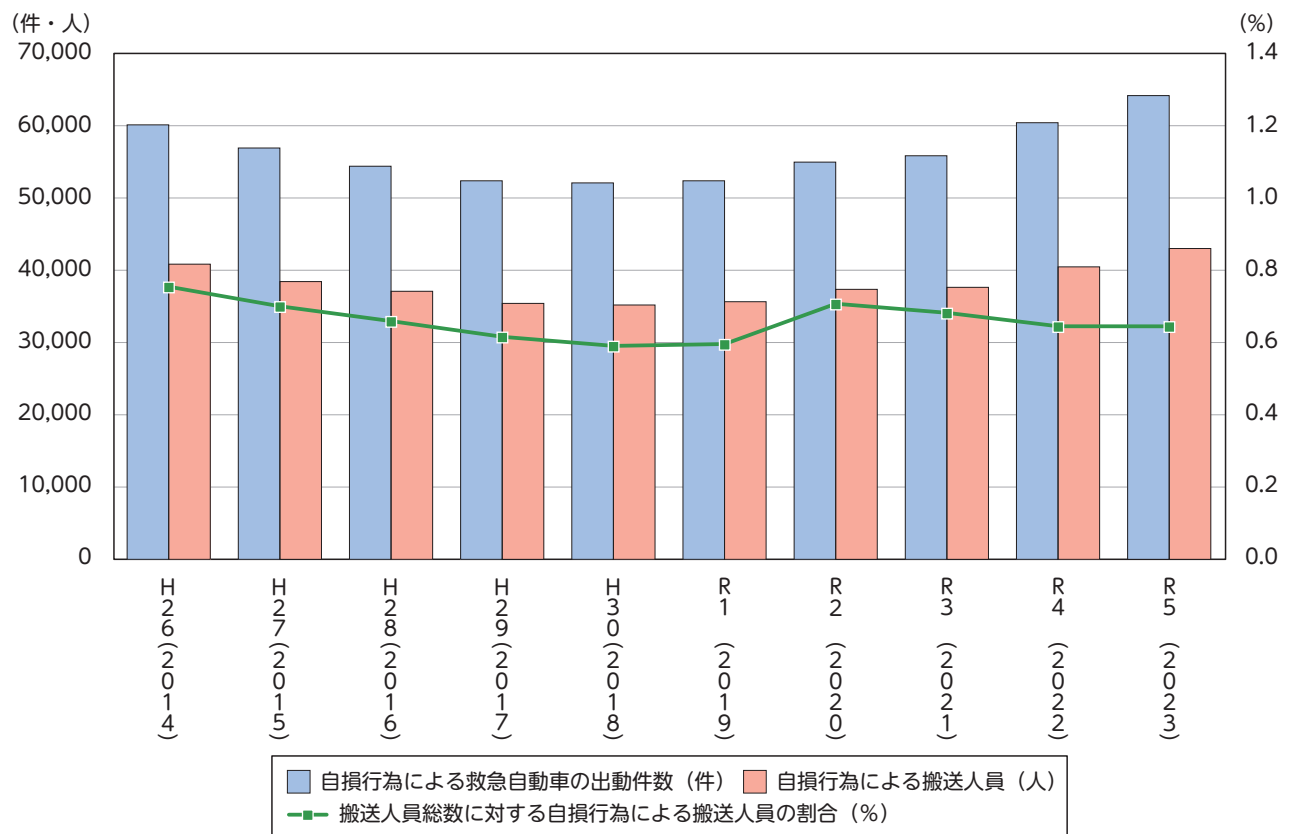


資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

2 自殺統計原票では、自殺未遂とは死ぬことを目的として自分を傷つけたものの結果として死に至らなかったものをいい、自傷行為とは死に至ることを意図せずに自分を傷つける行為のことをいう。

参考として、消防庁によると、自損行為による救急自動車の出動件数及び搬送人員は、平成30年まで減少傾向であったが、令和元年にいずれも増加に転じ、その後5年連続で増加した。一方、搬送人員総数に対する自損行為による搬送人員の割合は、令和元年及び令和2年に上昇したが、その後は低下している（図表1-20）。

図表1-20 自損行為による救急自動車の出動件数及び搬送人員の推移

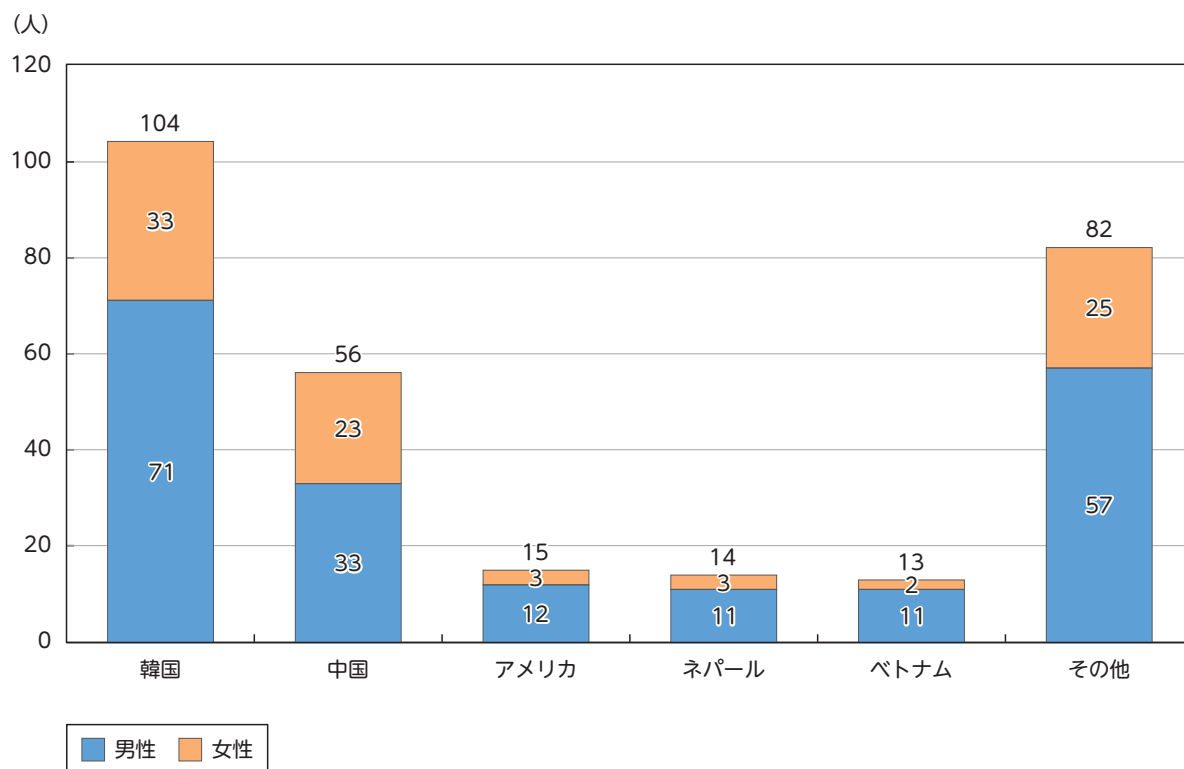


資料：消防庁「救急・救助の現況」より厚生労働省作成

(8) 国内における外国人自殺者の国籍別の自殺の状況

国内の外国人の自殺者数は284人であった。国籍別にみると、「韓国」(104人)が最も多く、次いで「中国」(56人)が多かった(図表1-21)。

図表1-21 令和6年の国内における外国人自殺者数(国籍別)



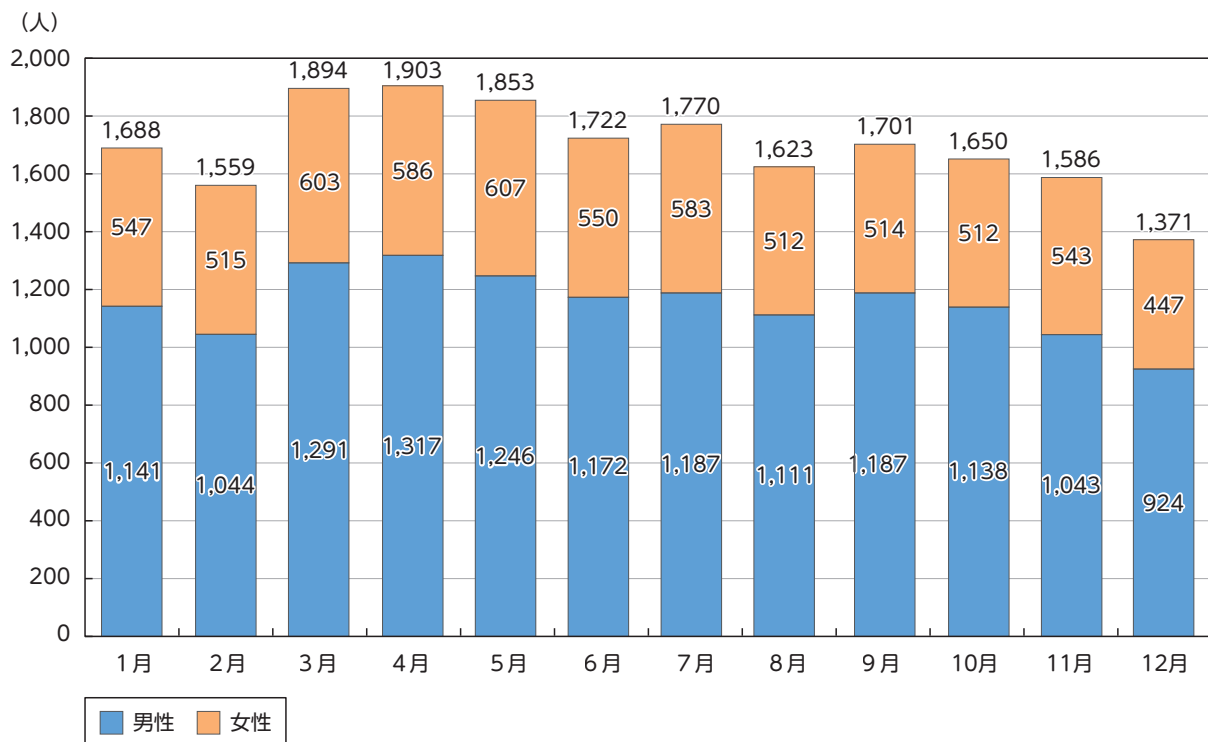
資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

(9) 月別の自殺の状況

自殺者数を月別にみると、「4月」(1,903人)が最も多く、「3月」(1,894人)、「5月」(1,853人)と続いた。また、「12月」(1,371人)が最も少なかった。

男女別にみても傾向に大きな差はなく、男性は「4月」(1,317人)、「3月」(1,291人)、「5月」(1,246人)の順に、女性は「5月」(607人)、「3月」(603人)、「4月」(586人)の順に多かった。また、男女とも「12月」(男性：924人、女性：447人)が最も少なかった(図表1-22)。

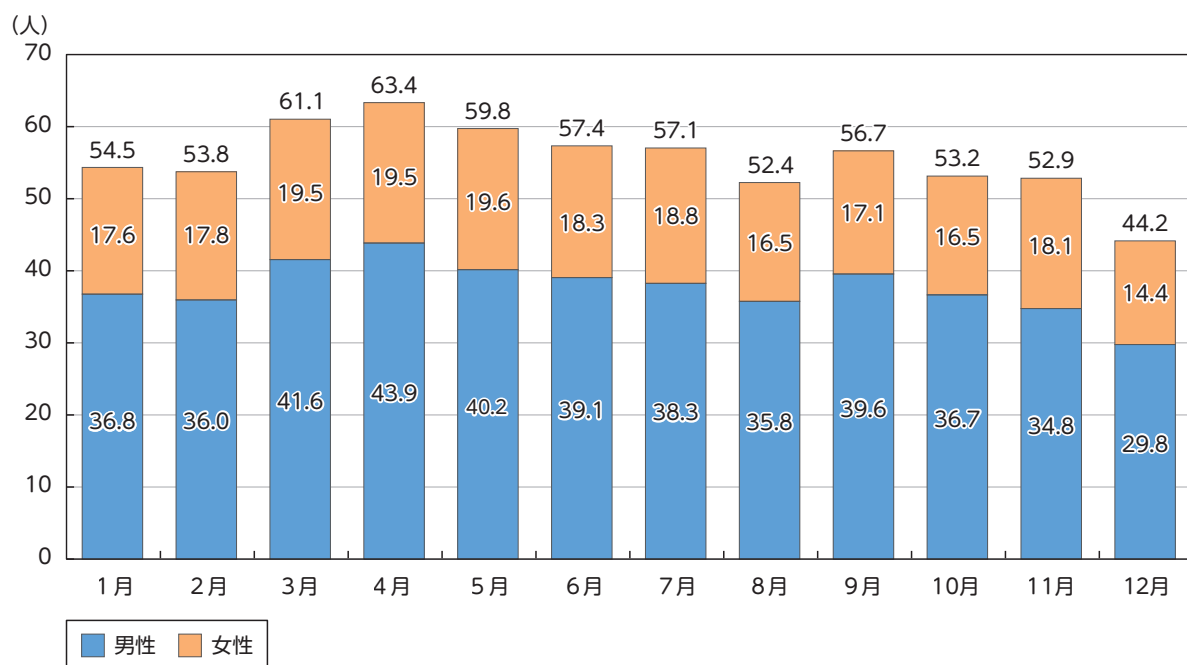
図表1-22 令和6年の月別自殺者数



資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

月別に1日当たりの平均自殺者数をみると、「4月」が63.4人と最も多く、男性は「4月」の43.9人、女性は「5月」の19.6人が最多となった（図表1-23）。

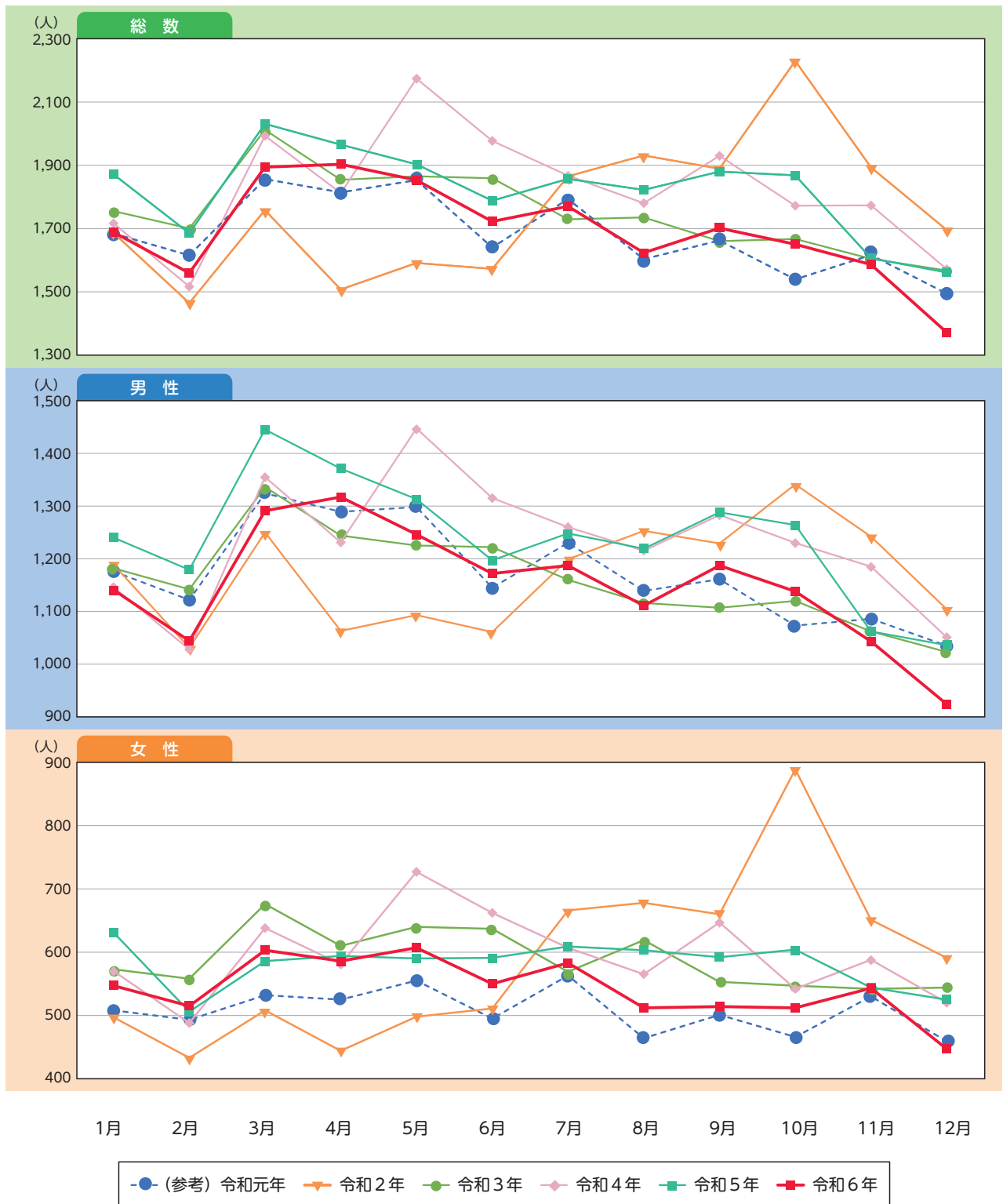
図表1-23 令和6年の月別1日平均自殺者数



資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

月別の自殺者数を直近5年で比較すると、令和6年では例年と比べ特に自殺者の多い月はなく、令和元年に近い推移となっている（図表1-24）。

図表1-24 月別自殺者数の推移（5年比較）



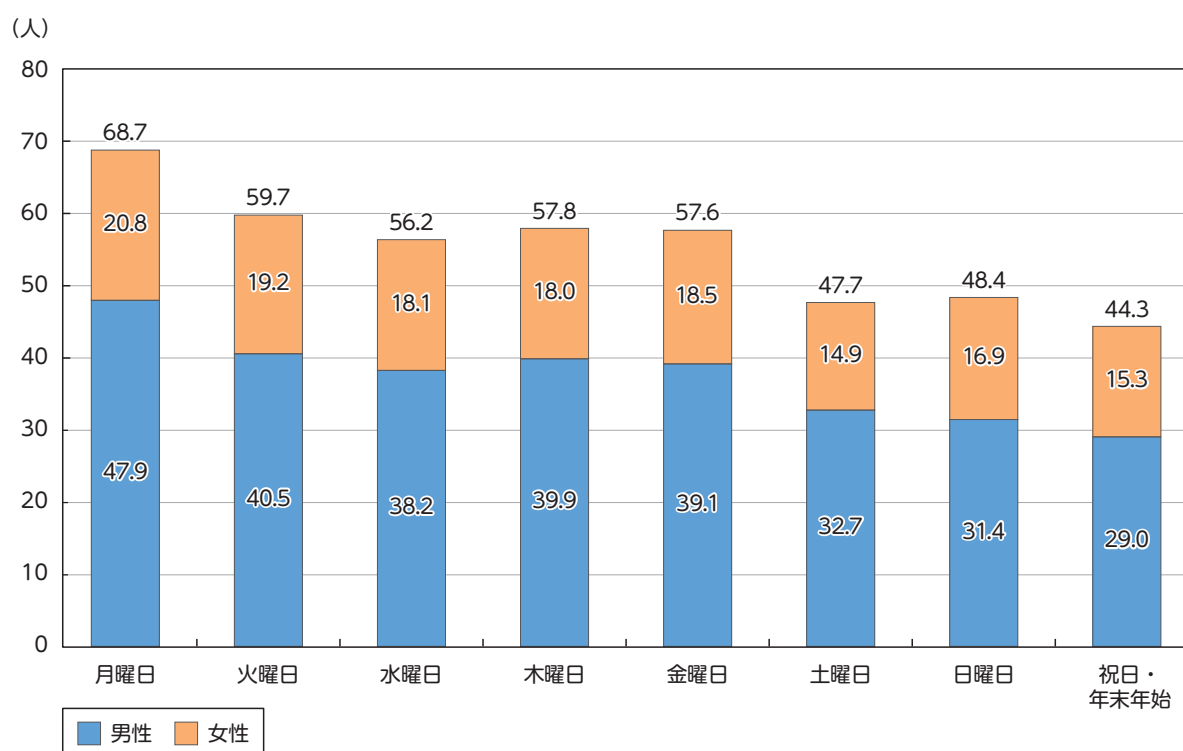
資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

(10) 発見曜日別の自殺の状況

自殺者数を1日平均に調整した発見曜日別にみると、「月曜日」が最も多く68.7人、「土曜日」が最も少なく47.7人であった。また、「日曜日」が48.4人と2番目に少なく、「祝日・年末年始³」でみても44.3人と、平日と比べて休日が少ない傾向であった。

男女別にみても、男女ともに「月曜日」が最も多く、男性が47.9人、女性が20.8人であった。また、「祝日・年末年始」を除き、男性は「日曜日」(31.4人)、女性は「土曜日」(14.9人)がそれぞれ最も少なかった。なお、「祝日・年末年始」については男性が29.0人、女性が15.3人であった(図表1-25)。

図表1-25 令和6年の発見曜日別1日平均自殺者数



※月曜日～日曜日に祝日・年末年始は含まない。

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

3 祝日は国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第3条に定める休日、年末年始は12月29日～1月3日とする。